

小白川地区 下野部落 (◆部落長 / 二瓶 幸浩 ●世帯数 / 22戸)



「お茶呑み会」ではない。公民館で「コーヒーを楽しみながらのティータイム」が印象的。また、集落の女性が持ち寄る手作りデザートは絶品！公民館の掛軸「若さその力が郷土を美化する」に象徴されるように、みんないきいきと郷土愛をもって暮らしている。時間があれば、「また一緒に集落の将来（夢）を語り合いたい」そう思える集落だ。

■集落の将来を担う子供たちが希望を持てる地域づくりを实践！

- ・若い衆会が無くなってから、若者の顔を見る機会が減ったのが寂しい。
⇒集落の若者が部落行事等に参加しやすい環境、仕組みを考える。
- ・子供たちが定住したいと思える集落の創造（子供の数を増やしたい）
⇒子供達が集落に関心を寄せ愛着を持ち続けられるように工夫できることを考える。

■自分自身が品性にかけることなく家族（周囲）から尊敬される高齢者に！

- ・祖父母世代は、同居の場合、孫の面倒を含めると年間約350万円分の労力を提供している。
⇒同居する家族（息子夫婦）は感謝の気持ちを持ち続ける。
- ・趣味・特技を発展させる。ボランティア活動にもチャレンジする。
⇒子供会育成会活動で使うお菓子は市販のものではなく集落の婦人が作ったデザートを採用。

■生活の不安（VS雪）

- ・大人は雪を厄介者扱いするケースが多いが、子供達からすれば雪が降れば大喜び。
⇒プラスの発想で雪を使った部落主催のイベント等を検討してみるのも楽しい。